

『全国学力・学習状況調査』結果分析と今後の取り組み

4月18日、全国の中学3年生を対象に、国語、数学、生徒質問紙の内容で調査が実施されました。以下に、本校3年生の調査結果を分析したものと今後の取り組みについて報告します。

1. 国語科

(1) 調査結果

- ・ 陵南中学校の3年生の結果は、兵庫県や全国の結果と比べて概ね良好である。
- ・ 話すこと・聞くこと、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項においては、全国平均と同程度またはやや上回っているが、書くことについては苦手意識がある生徒が多いことが読み取れる。
- ・ 読み取る力や漢字の読み書きに関しては、成果が見られる。
- ・ 全国的な傾向と同様、物事について自分の考えをもち、それが伝わる文章になるように工夫して表現することが苦手である。
- ・ 全体的に無解答率が低く、粘り強く問題に取り組む姿勢が見受けられる。

(2) 結果分析

- ・ 文脈に即して正しく漢字を書くことができる。
- ・ 目的や意図に応じて資料を整理し、伝えたいことを明確にできる。
- ・ 文章中の情報と情報を関連付けたり、段落の役割や関係を理解し、内容を捉えたりすることができる。
- ・ 他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることが苦手である。
- ・ 目的に応じて、文章から必要な情報を読み取ることはできるが、要約することが苦手である。
- ・ 表現の効果を工夫し、自分の考えが伝わる文章にすることが苦手である。

(3) 今後の取り組み

- ・ 物語文や説明文だけでなく、資料から必要な情報を読み取ったり、自分の考えをまとめたりする機会を設ける。
- ・ 人の意見を聞いたり文章を読んだりすることを通して、自分の考えを持つ機会を増やしていく。
- ・ 自分の考えを持ち、それを相手にわかりやすく伝える練習を行う。
- ・ 文章を書く機会をさらに増やし、自分の考えが伝わる文章を書く力を伸ばす。

以上の取り組みを、国語の授業で行っていく。また、総合的な学習の時間や学活などでも身につける機会を設けていきたい。

2. 数学科

(1) 調査結果

- ・ 陵南中学校の3年生の平均正答率は、兵庫県や全国の結果よりも概ね良好である。
- ・ 特に、「数と式」の領域の平均正答率は兵庫県や全国の結果と比べ上回っており、成果が見られる。
- ・ 与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる問題は、兵庫県や全国の正答率と比べ大きく上回っている。
- ・ 箱ひげ図からデータの傾向を読み取り説明したり、図形の領域で証明したりする問題において、無解答率が兵庫県や全国と比べて高い。

(2) 結果分析

- ・ 「数と式」の領域については、日々の授業において繰り返し取り組んだことが、基本的な技能の定着につながったものと考えられる。
- ・ 確率の問題での正答率が低いことから、問題文を正確に把握したり樹形図や表を使って正確に書き出したりすることが苦手な生徒が多い。
- ・ 昨年度と同様、「説明する」「証明する」といった記述式の問題での無解答率が高いことから、この無解答層の生徒の苦手意識を払拭することが課題であると考ええる。

(3) 今後の取り組み

- ・ 記述式の問題への無解答率を減らすために、数学的思考力を問われる問題に取り組む時間を増やしたい。
- ・ 本校の結果が全体的に兵庫県や全国よりも概ね良好であったにも関わらず、生徒質問紙調査において、「数学の授業の内容はよく分かりますか」という質問に対して否定的回答の割合が高い。そのことから、数学に対して自信が持てず、苦手意識を持つ生徒が多いことがうかがえる。今後は、スモールステップで問題に取り組ませたり、ICTを活用して個に応じた学習や協働学習を行ったりする場面を設けることで、生徒一人ひとりに達成感を感じさせ自信を持たせることにつなげたい。

以上の取り組みを、数学の授業で行い、総合的な学習の時間や学活などでも身につける機会を設けていきたい。

3. 生活

(1) 調査結果

- ・「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対して「当てはまる」と半数の生徒が回答しており、兵庫県や全国の平均を大きく上回っている。
- ・「学校行くのは楽しいと思いますか」の質問に対して肯定的回答の割合が 93%で、兵庫県や全国と比べ大きく上回っている。
- ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対して「当てはまる」と回答した割合は、兵庫県や全国の平均を大きく上回っている。
- ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に対して肯定的回答の割合が昨年度から向上し、兵庫県や全国の平均を上回っている。
- ・「友達関係に満足しているか」の質問に対して肯定的回答の割合は 95.1%と兵庫県や全国の平均を上回っている。
- ・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできますか」の質問に対して肯定的回答の割合が全国平均を 3 ポイント下回っている。

(2) 結果分析

- ・生徒の規範意識は高く、地域や社会に目を向ける意識も上昇している。
- ・友人関係に満足している生徒が増加した。コミュニケーショントレーニングやソーシャルスキルトレーニング (SST) に取り組んだことも、自分と異なる意見に対して受容する意識の向上に役立ってきたのではないかと考えられる。
- ・学年として、対話を増やし、個々の良いところを認め合おうと継続してきた取り組みが、各生徒の自己肯定感を高めることに繋がったことがうかがえる。
- ・自分で学び方を考え、工夫しようとしてきていないと答える生徒が約 25%と多く、自ら課題を考え克服する力が乏しい現状である。

(3) 今後の取り組み

- ・基本的生活習慣を整えるための具体的な方法の啓発を行い、学習や運動活動の質向上につなげる。
- ・自分の意見を適切に伝える力や他人の意見を聞く力を向上させるために、引き続きコミュニケーショントレーニングや SST を行い、自分自身を見つめ進路実現につなげていく。
- ・ICT 機器を適切に活用する学習を行うための時間の確保や適切な課題を改訂し、自ら楽しみながら、友達と協力しながら学習を進めることができる教材開発を進める。